

平成22年度全国乗馬指導者競技会

&

第2回ジャパンホースフェスティバル

平成23年2月18日（金）～20日（日）に、本協会の乗馬指導者資格を有している者を対象とした「平成22年度全国乗馬指導者競技会」と昨年度新設した乗馬愛好者を対象とした「第2回ジャパンホースフェスティバル」を併催するかたちで、東京世田谷のJRA馬事公苑で開催しました。

北は青森県から西は岡山県までの33乗馬クラブ、171頭、指導者競技会に76名、フェスティバルには197名が集まり、両競技会とも全日本馬術大会クラスの審判員やコースデザイナーが担当しました。

初日午前中の入厩時は大雨でしたが、競技の始まる午後には2月とは思えないほどの気温となり、3日間好天に恵まれ開催しました。

《全国乗馬指導者競技会》

本協会認定の乗馬指導者資格保有者のみの競技会であり、内国産乗用馬（日本国内で乗用馬として生産された馬）や競走転用馬（競走馬から乗用へ転用され再調教された馬）を奨励する競技会でもあります。

競技種目は、以下の馬の条件で馬場馬術と障害馬術のそれぞれの競技が行われました。

★新馬競技

競走馬（日本中央競馬会・地方競馬全国協会）としての登録を抹消してから3年以内の馬。または競走未出走馬ならびに内国産乗用馬は年齢が6歳以下の馬が出場できる種目。

★スポーツホース競技

サラブレッドおよびアングロアラブ以外の品種で、日本国内で生産された6歳以上の馬が出場できる種目。

★レースホース競技

品種がサラブレッドおよびアングロアラブで、競走馬（日本中央競馬会・地方競馬全国協会）としての登録を抹消してから3年以上の馬。または競走未出走馬の場合は年齢が6歳以上の馬が出場できる種目。

★外国産馬競技

日本国外で生産された馬が出場できる種目。

★内国産馬競技

日本国内で生産された馬。または競走馬（日本中央競馬会・地方競馬全国協会）としての登録されていた馬が出場できる種目。

★制限がない競技

制限がなく全ての馬が出場できる種目。

全13種目が繰り広げられ馬の調教度合いと乗馬指導者の技術が競われました。

中でも、馬場馬術メイン競技の内国産馬セントジョージ賞典馬場馬術競技では、斉藤裕己選手（埼玉県：ウィルスタッド所属）とラ・グラーツィア号（北海道産・サラブレッド・17才・牝馬）が5連覇を成し遂げました。

撮影協力：(株)ユナイテッド・フォトプレス



内国産馬セントジョージ賞典馬場馬術5連覇の
斉藤裕己選手とラ・グラーツィア号



表彰式：左から細野茂之選手、
斉藤裕己選手、関戸盛夫選手

一方、障害馬術メイン競技の内国産馬中障害飛越競技Bでは、2010年全日本パートI中障害B決勝3位のオンブレサーティーン号と福島勇選手（千葉県：佐倉ライディングクラブ所属）、2010年全日本内国産馬障害飛越選手権優勝のセルシオーレ号と川口雅美選手（静岡県：ライディングクラブフジファーム所属）などの強豪人馬が出場しましたが、それぞれ1落下があり、結局2頭のサラブレッドがジャンプオフに進出、経験豊富なトップギアI号と増山誠倫選手（栃木県：小山乗馬クラブ所属）がパーフェクトな走行で今年度の覇者となりました。

数々の乗馬指導者達が自身の調教度合いを披露し白熱した戦いでした。



内国産馬中障害飛越競技優勝の増山誠倫選手とトップギアI号

左から本田恵士選手、増山誠倫選手、杉山慎一郎選手



《ジャパンホースフェスティバル》

全国乗馬普及大会として昨年度スタートし、今大会より「ジャパンホースフェスティバル」と大会名を変え、乗馬愛好者が競技会を楽しみながら技術の向上と参加者との交流、乗馬指導者と共に出場できる種目を設けた競技会です。馬場馬術では日本馬術連盟制定の第2課目～第4課目、障害馬術では80cm～110cmまでのそれぞれ4クラスが実施されました。

そして、この競技会ならではの種目がパドウドウ競技（2人馬が1組で行う馬場馬術競技）です。本協会が制定した、第2課目と第3課目程度の2つのレベルが行われ、乗馬クラブの会員同士の組や乗馬指導者と生徒さんの組、姉妹で出場するなど様々な組の出場をいただきました。夕刻の寒い中でしたが多くの観客がオープンスクエア（ガラスアリーナの横の馬場）に集まりました。競技中には場内放送で2頭がどのように演技するかを分かり易くアナウンスし、演技が終了すると大きな拍手が鳴り響きました。

【パドウドウ競技】

撮影協力：(株)ユナイテッド・フィットプレス



全日本馬場馬術大会で好成績を挙げる
斉藤裕己選手と橋本碧選手ペアも出場



八王子乗馬倶楽部所属の辻川鼓選手と辻川彩花選手姉妹
ポニーに騎乗し、とても息の合った演技でした。



八王子乗馬倶楽部 山田英恵選手と奥田葉音選手



乗馬クラブクレイン千葉

山野香代選手と浦部喜代美選手

また、障害馬術競技では東西5名の選抜されたプロ選手（乗馬指導者資格取得者のみ）による東西対抗競技（団体戦）も行われました。東軍は川口巖監督（ライディングクラブフジファーム）、西軍は選手兼監督で中村勇氏（北勢ライディングファーム）が指揮をとりました。東軍（福島勇選手・川口雅美選手・草薙達也選手・杉山慎一郎選手・増山久佳選手）が減点4、西軍（中村勇選手・中村洋子選手・原田喜市選手・伊藤あき選手・森裕悟選手）が減点10で昨年に引き続き東軍が勝利しました。

【東西対抗競技】（優勝：東軍）

撮影協力：(株)ユナイテッド・フィットプレス・(有)フォックス・ヴィジュアル



福島勇選手とオンプレサーティーン号(岩手県遠野産)



杉山慎一郎選手とマークジェル号(岩手県遠野産)



草薙達也選手とガルビーノ号(ドイツ産)



川口雅美選手とセルシオーレ号(静岡県産)



増山久佳選手とパリミナ号(ベルギー産)



東西対抗を制した東軍の選手達

左より草薙・福島・川口・杉山・増山・細野本協会会長

フェスティバルPHOTO集



馬場馬術競技場にも多くの観客



馬術競技			
順位	出場順/馬番	競技者名	馬名/所属
PLACE	NO.	RIDER	HORSE/TEAM
1	1	吉川 恵美子	ダントク
2	2	木下 建太郎	サマサマ
3	3	平井 妙子	ワトロード
4	4	森 洋之	ミッドウェイ
5	5	赤塚 祐太	トワイニング



賞品は、優勝は青、2位は赤、3位は黄の馬の彫り物の入ったシャンパングラス



パドウドウの会場にも多くのお客様が集まりました。

入賞者には馬のマークの入ったキーホルダーが授与されました。

馬場馬術競技の準備運動馬場



大会2日目には選手、役員、関係者合わせて約180名のご参加をいただき親睦会が講堂で行われました。細野利昭本協会会長の挨拶の後、武宮匡宏全国乗馬指導者協会会長の乾杯で参加選手同士や各乗馬クラブの指導者相互の親睦が行われました。会の途中で「東西対抗 知ってQイズ」と題しまして、東西それぞれのキャプテンを決め参加している方々を指名して、「馬術の歴史」、「競技ルール」、「時事問題」などの分野のクイズが出題され大いに盛り上がり、楽しいひと時を過ごしていただけたと思います。

【親睦会】

撮影協力:(有)フォックス・ヴィジュアル



親睦会には多くの方々にお集まりいただきました



今後も、選手の技術向上は勿論のことですが、選手も観客も一緒になり楽しめる競技会を開催したいと思っております。

最後になりましたが、運営にご協力していただいた多くの方々に感謝申し上げます。

競技成績は、[「指導者競技会成績表」](#)、[「フェスティバル入賞者一覧」](#)よりご覧いただけます。



(社)全国乗馬倶楽部振興協会